



国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー

長井ロータリークラブ会長 大山友規憲

第2800地区ガバナー 大久保章宏

幹事 土屋茂樹

第6ブロックガバナー補佐 味田琢哉

例会日 毎週火曜日 12:15~13:15

例会場 タスパークホテル TEL0238-88-1833

事務局 長井商工会議所内 TEL0238-83-2047

URL: http://www.nagai-rc.jp

E-mail: info@nagai-rc.jp

会報委員 塚田弘一 寒河江良一 横澤寿彦

【10月・特別月間】経済と地域社会の発展月間・米山月間（日本）

例会報告 No.11（通算 第2801回）2019年（令和元年）10月1日（火）号

■ロータリーソング：国歌

■ゲスト紹介：

東北おひさま発電(株)
代表取締役 後藤博信様



■会長の時間（挨拶・報告）：大山友規憲会長



本日は、東北おひさま発電(株)代表取締役後藤博信様をお迎えしてのゲスト例会です。地域に根ざした発電所を目指しての卓話を楽しみにしております。

さて、先日の日曜日に第6B・IMが米沢上杉RC主催にて開催。基調講演は藤川享胤PGより「ロータリーライフを楽しく、充実するには」と題して行われ、後にパネルディスカッション形式での発表と質疑応答が行われた。

（講演より）基本に立ち返りロータリーの現在に至るまでの話を受け、話が深く含蓄に富み理解するのが難しかったが、今後の機会が増えるにつれ理解が深まるものと感じる。

（質疑応答より）特に印象に残ったのは、例会を月4回開催していないのが12クラブ中3クラブしか無かった事である。「なぜ理事会でそうなったのか」の問いに3クラブ会長は、金の問題、月曜日例会の祝日が多い、当クラブは昨年より増やすようにしたと回答。講師より「例会回数は減らすべきではない」話がある。他クラブ例会開催はもっと少ないと思っていた事や他クラブの状況が良く理解していない事を反省。

（懇親会）親睦を深めると共に他クラブの会長さんと情報交換を行う。IMは研修と親睦を深める場ですが、その意味で大変勉強になり、今後につなげていきたいと感じる。

■幹事報告：土屋茂樹幹事

○第8回理事会のご案内 日時 2019年10月8日(火曜日) 午前11:30より
場所 タス 1F 会議室

○米沢おしょうしなロータリークラブ創立20周年記念式典について

申し込み期限 本日までですので出欠確認をお願いいたします。

・早退届 齋藤裕之会員 会議所用により。



■委員会報告 : R財団・米山記念奨学委員会 — 横澤寿彦委員長



- ・次週例会（10/8）案内
米山月間（10月日本独自）により、
地区米山奨学・学友委員会委員長
田中隆一氏（米沢RC会長）卓話例会
- ・ポリオプラスポスター紹介
事業開催時の掲示と啓蒙に利用



■ニコニコBOX : 井上晴雄副SAA



- | | |
|---------|-------------------------------|
| 大山友規憲会長 | 後藤社長を歓迎して |
| 塚田弘一会員 | 後藤社長の先駆的で高い志に敬意を表します。 |
| 伊藤克也会長E | 後藤社長を歓迎して IMで例会に出席する意義を学びました。 |
| 横澤寿彦会員 | 後藤社長を歓迎して |
| 小笠原信吾会員 | 後藤社長を歓迎いたしまして |

■表彰（10月）: 小笠原信吾親睦委員長



おめでとうございます

- | | | |
|--------|----------|-------|
| ○本人誕生日 | 遠藤伴明直前会長 | （2日） |
| ○奥様誕生日 | 大山友規憲会長 | （20日） |
| | 横澤寿彦会員 | （14日） |
| ○結婚記念日 | 齋藤慎治会員 | （15日） |
| | 寒河江良一会員 | （15日） |



（ゲスト卓話）

地域エネルギー 発電所を創る

東北おひさま発電(株)
代表取締役 後藤博信様

○卓話より

- ・天然資源＝地域資源（太陽光、風力、水力、地熱、生物＝バイオマス）の中で、地域に根差し恩恵を受けているものを、自分たちの手で活かし活力を見出すことを基本的認識としている。
- ・バイオマス電力に次がある。
木質チップ燃焼による水素ガス発電 牛糞、食物残渣等の発酵(嫌気性)によるメタンガス発電
- ・飯豊町眺山に、牛の排泄物でバイオマス発電所を建設中（7月）。従前の悪臭問題の解決をはかる。 発電量年間 400万kwhで1000世帯分売電。 液肥活用。 等々
- ・大規模電力（火力、ダム型水力、原子力）」による系統連携（総配電性）でない、地域資源で地域電力（住民参加型でいろんな利用）を目指す。各地で実証されてきている。
- ・資料参照 地域資源を活用する#3 コミュニティパワー（地域電力）3原則 —





国連気候行動サミット 9月23日開催

環境活動家：グレタ・トゥベリ(スウェーデン16歳)

私たちは、あなたたちを注意深く見ている。私のメッセージだ。私はここに立っているべきではない。私は海の反対側で学校に通っているべきだ。それなのに、あなたたちは、私たち若者に希望を求めてやってくる。そんなことがよく、できるものだ。あなたたちは空っぽのことで私達の夢を奪い去った。人々は苦しみ、死にかけ、生態系全体が崩壊しかけている。私たちは絶滅に差し掛かっているのに、あなたたちが話すことは、お金のことや永遠の経済成長というおとぎ話だけ。何とということだ。必要な政策や解決策が見当たらないのに、目を背向けここに来て「十分にやっている」なんてよく、言えるものだ。今後10年間で(温室効果ガスの)排出量を半分にするというよくある考え方は、気温上昇を1.5度以内に抑えられる可能性は50%しかなく、人類が制御できない不可逆的な連鎖反応を引き起こす恐れがある。私たちはその結果を共に生きていかなければならない。全ての未来世代の目は、あなたたちに注がれている。私たちを失望させる選択をすれば、決して許さない

2030年の環境 #1

- ▶世界の人口 84億人
現在70億人の人口は、2025年80億人を突破し、2030年に84億人に達する(国連資料より)
- ▶日本の生産人口 Δ22%
15~64歳の人口は、ピークだった1995年の8,726万人から2030年には、6,773万人に減少(国立社会保障・人口問題研究所資料より)
- ▶世界のエネルギー消費量 175億ト
2030年における世界の一次エネルギー消費量は石油換算で175億トに達した。2011年比で33%増加(日本エネルギー研究所資料より)

2030年の環境 #2

- ▶世界の環境負荷 地球2個
人類の自然資源の需要は、2030年に地球の生産力(供給力)の2倍を超える(世界自然保護基金より)
- ▶穀物価格 2倍
2030年までに世界の穀物価格は、2011年比で2倍になる。その要因の半分が気候変動による影響(オリックスファイナンス資料より)
- ▶世界の水不足 40%
対策を打たなければ、2030年の水需要は現在の供給力の40%超に達した。2011年比で33%増加(WRG資料より)

再生可能エネルギー

- ▶地域で
- ▶自立(自律)させて
- ▶小規模に
- ▶分散して
- ▶多く
- ▶活用する
- ▶ことができる

鹿追町瓜幕バイオマスプラント

地域資源の活用 #1

地域にある自然資源を、地域の特性に応じて、地域の主体が普及を推進できる

- ▶地域のエネルギーセキュリティ
- ▶地域の主体が連携して、向上に向けて能動的に普及策を検討可能
- ▶技術的にも地域の企業などが、コストダウン策の創意工夫を活かす余地大
- ▶経営主体として、地域主体が参画可能

地域資源を活用 #2

- ▶地域が主体的にプロジェクトを進めていく場合、周辺環境について事前に配慮することが可能
- ▶普及のための資金を地域金融機関、地域の主体が連携して調達可能
- ▶各地域の取組みが同時進行することで、相互の学習効果が働き、普及方策の取組みを集合知により洗練させることが可能

地域資源を活用 #3

地域に存在する自然エネルギーは、地域固有の資源である

コミュニティ パワー(地域電力)3原則

- 1) 地域の利害関係者がプロジェクトの大半、若しくは全てを所有する
- 2) プロジェクトの意思決定はコミュニティに基礎を置く組織によって行われる
- 3) 社会的・公共的便益の多数若しくは全ては地域に分配される

8

地域資源を活用 #4

以下のメリットを持つ再生エネルギーシステムは、次世代に引き継ぐべき良質な社会資本である

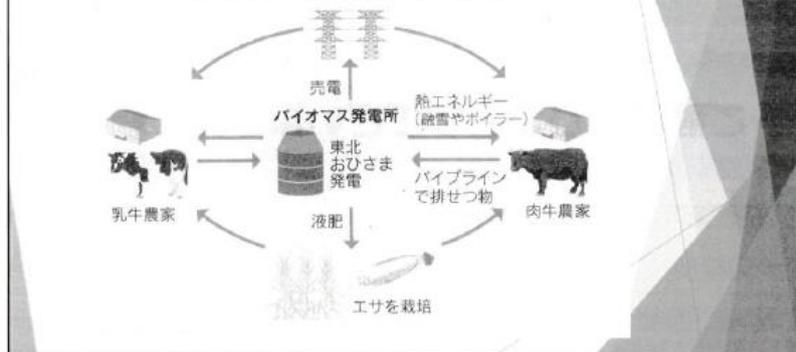
- ① 温室効果ガスの削減などの環境改善
- ② エネルギー自給率の向上
- ③ 化石燃料調達に伴う資金流出の抑制
- ④ 産業の国際競争力の強化
- ⑤ 雇用の創出
- ⑥ 地域の活性化
- ⑦ 非常時のエネルギーの確保



9

牛の排泄物でバイオマス発電 #1

循環型農業につなげるバイオマス発電



10

ニコニコBOXを頂きました



■ IM (9/29)



